

## おわりに

魅力再発見会議は、地域住民のみなさまが考えるみなべ・田辺地域の資源とその魅力を共有し、資源を活かすために分野を超えて話し合うことを目的に開催しました。

第1回魅力再発見会議では、協議会の専門部会委員を含む17名の方々にお集まりいただき、協議会ホームページで募集した資源とあわせて、計183件の資源が挙がりました。魅力再発見会議の参加者からは、先人から多くのものを引き継いできたことに驚いた、里山の絶景ポイントを知ってもらいたいなど、資源にまつわる思いが多く寄せられました。

第2回魅力再発見会議では、南高梅や備長炭が日本一になるまでの先人たちの苦労や、その思いを受け継ぐ地域の「物語」が挙がりました。

魅力再発見会議の成果は、今後、副読本やカレンダー作成等の取組みの検討材料の一つとして活用するなど、今後のまちづくりの様々な取組みにおいて活かしてまいります。

結びに、今回のワークショップに参加いただきました皆様に心から厚くお礼申し上げます。



## 「みなべ・田辺の梅システム 魅力再発見会議」開催報告書

### 「みなべ・田辺の梅システム」魅力再発見会議 開催報告

発行 みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会  
<事務局> みなべ町うめ課  
連絡先 〒645 0002 和歌山県日高郡みなべ町芝 742  
電話 0739 74 3276  
H P <https://www.giahs-minabetanabe.jp/>  
MAIL [wakayama@giahs-minabetanabe.jp](mailto:wakayama@giahs-minabetanabe.jp)

平成30年3月

みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会

# 1. 開催概要

みなべ・田辺地域では、「みなべ・田辺の梅システム」の世界農業遺産認定（平成 27 年 12 月）を機に、その一環として、本年度、「みなべ・田辺の梅システム魅力再発見会議」（以下、魅力再発見会議）を開催。地域のみなさま自身が観光客や子ども達に伝えたいと思う、魅力的なみなべ・田辺地域の資源を挙げ、梅

## 第 1 回 みなべ・田辺の梅システム魅力再発見会議 「みなべ・田辺の梅システムの資源マップをつくろう！」

**日時** 平成 29 年 9 月 19 日（火）19:30～21:30  
**場所** みなべ町役場 3 階大会議室  
**参加者** 17 名  
**内容** 魅力的だと思う地域の資源を挙げ、地図上にプロットして「資源マップ」をつくりました。

### 1 資源マップをつくる



みなべ・田辺地域の資源の名前と、その内容や魅力的なところについて「資源カード」に記入し、6m×6m の大きな地図の上に資源が位置する場所をプロットしました。

### 2 資源の魅力を共有する



挙げた資源の中から、イチオシの資源とその魅力、資源にまつわる思い出、魅力再発見会議を通じて知ったことなどについて、参加者一人ひとりが発表しました。

ワークショップの成果 3、4 ページ

## みなべ・田辺地域の横と縦の骨格

### 【横の骨格】

みなべ・田辺地域は、東西にのびる瓜谷累層のうえに、ウバメガシ林が位置し、「ウバメガシのベルト地帯」を形成しています。

### 【縦の骨格】

ウバメガシに乏しい名之内地区は、ウバメガシのベルト地帯上に位置する秋津川地区の薪炭林を使うなど、古くからベルト地帯を介して地区の交流が生まれてきました。石神梅林内にある桜地蔵と清川にあるウバメ地蔵は、地区を結ぶ道の脇に置かれていたもので、古くから地区の交流があったことを伝えています。

清川地区から南部湾へ続く「南部うね」と呼ばれる道は、江戸へ炭を運ぶため、南部湾まで炭を運んだ道です。炭産業によって貿易が盛んだったため、南部湾のまわりは旅館が多く建てられました。



## 梅と炭の「食」のつながり

炭焼きの最中は身体が熱くなり水分補給が必須です。梅干とおかいさん（茶粥）は、水分補給のための食品として炭焼き職人に愛されてきました。

このように、梅と炭は、世界農業遺産に評価された薪炭林と梅林の配置のつながりだけでなく、食品（梅干し）としても、炭とつながっています。

# 4. 参加者からのご意見

資源の活用に向けての提案も挙がりました。

### ○地元の人が教えたくない資源

沿岸部の資源は、ガイドマップに載っており有名である。一方、山間部の資源はあまり知られていないが、地元の人からすれば、観光客に教えたくないほど大切に育ててきた資源である。「うめ課に来れば、資源の場所をおしえてあげよう」とするのも面白いかもしれない。

### ○副読本の活かし方

副読本は、それを読んだ子どもたちが調べたいようになるように、分かりやすくない方が良い。子どもたちが資源について調べていく際に、資源マップが活用できるのではないかと。

### ○6/6 梅の日を世界へ

日の丸弁当に代表されるように、和食に欠かせない梅干を、健康食として外国人にもPRできるのではないかと。

### ○清川をスポーツのメッカに

旧清川中学校にはボルダリング施設があり、清川は「梅の里トレイルラン」のコースにもなっている。旧清川中学校を秋津野ガルテンのような宿泊・体験施設にしてスポーツのメッカにできるのではないかと。

### 3 . 物語

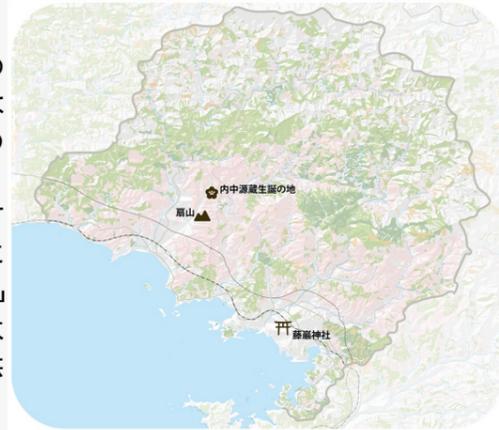
ワークショップで挙がった主な「物語」は下記の通りです。

#### 先人たちの「想い」を受け継ぐ

江戸時代に梅栽培が始まり、そこから先人たちが苦勞を重ねて梅栽培を続けてきました。人々に笑われてもめげず、黙々と梅を植え続けました。先人の奥さんはもっと苦勞したでしょう。そのような先人たちの苦勞や想いが受け継がれ、日本が誇る「南高梅」は生まれ、そして今の自分がいるのです。

#### 梅栽培をはじめた「ご先祖」

田辺市の藤巖神社の境内には、安藤直次による梅栽培のはじまりの歴史が綴られています。また、みなべ町には扇山を開墾して梅栽培を始めたと言われる内中源蔵氏の碑があり、そこから扇山を見渡すことができます。みなべ・田辺地域の梅栽培のはじまりには諸説ありますが、地域の人々はやせた土地でも元気に育つ梅を大切に育て、梅栽培をはじめた人たちを、自分たちの「ご先祖」と敬います。その気持ちは、記念日の2月11日に大勢の人が内中氏の碑の前に集まり、その徳をしので供養することなどにも表れています。



#### 花で儲け、実で儲け

昔より、梅の効能は全国で信じられてきました。石見銀山では鉱山労働者がマスクに梅肉を塗った「梅マスク」で粉じんの吸い込みを防いだと言われており、奈良では大仏を磨くのに梅酢を用いたと言われています。みなべ・田辺地域ではそのような梅を、あますことなく活かして、地域を発展させてきました。花は観梅に、実は梅干に、種は枕に、そして梅酢は料理や「うめどり」に使われています。

#### みなべ・田辺地域の備長炭が日本一になるまでの苦勞

かつて、みなべ・田辺地域の備長炭が日本を代表する炭と評されていなかった頃、炭焼き職人は大変な苦勞をしていました。炭焼き職人の家庭の子どもは、朝、炭を背負いながら登校し、炭を運ぶお手伝いをしていました。学校に着くころには、炭のにおいがついてしまい恥ずかしい思いもしていましたが、それでも手伝っていたのです。

「みなべ・田辺の梅システム」の魅力を活かしたまちづくりに取り組んでいます。しました。

や炭などに囲まれた本地域の暮らしに秘められた素晴らしさを再発見し、地域の皆様と共有していく試みです。

### 第2回 みなべ・田辺の梅システム魅力再発見会議 「資源マップを使って、これからのことを話し合おう！」

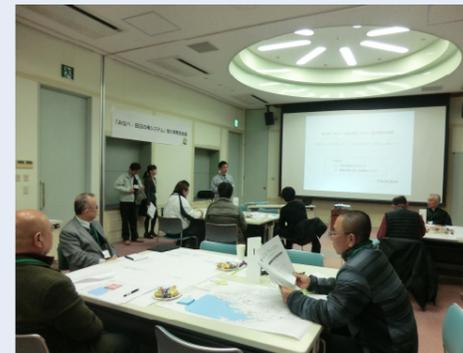
日時 平成30年1月30日(火) 19:30~21:30

場所 みなべ町役場 3階大会議室

参加者 10名

内容 今後の取組みの中で、資源そのものだけではなく、資源にまつわる地域の魅力、地域への誇りや愛着、思い等を語り伝えるための「物語」を考えました。

#### 1 「物語」を考える



資源マップをもとに、グループで話し合いながら「物語」を考えました。

#### 2 「物語」を共有する



考えた「物語」を発表し合い、みなべ・田辺地域の資源について伝えたい思いを共有しました。

ワークショップの成果 5、6ページ

## 2. 「みなべ・田辺の梅システム」の資源マップ

魅力再発見会議や協議会ホームページでの公募によって地域住民から計 183 件の資源が挙げられました。

その成果を、今後の地域の取組みに活かすための基礎資料として、資源マップに整理しています。

